

市場営業統括部 チーフ・エコノミスト 山下えつ子

## 来週のポイント

**ドル/円： 上昇**

	週末 正午	次週発行まで	3ヵ月後
ドル/円	90.60 円	89.00-92.00 円	85.00-95.00 円

- ・ FOMC はサプライズなしを予想するが、出口が意識されやすくドル高。

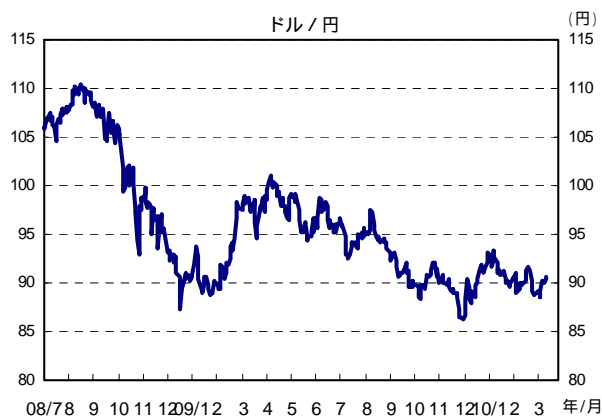
**ユーロ/円： 上昇**

	週末 正午	次週発行まで	3ヵ月後
ユーロ/円	123.94 円	122.00-125.00 円	120.00-130.00 円
ユーロ/ドル	1.3680 ドル	1.3600-1.3750 ドル	1.3000-1.5000 ドル

- ・ ギリシャ問題は底流に残るが、一方的なユーロ売りは一服。
- ・ 日銀の追加緩和は円安要因。

本レポートは、本日正午までの情報を元に作成しています。

FOREX WEEKLY は弊行ホームページでもご覧頂けます。  
[\(http://www.smbc.co.jp/\)](http://www.smbc.co.jp/) マーケット情報 外国為替  
 情報 フォレックス・ウィークリー  
 FOREX WEEKLY の印刷物での配信は3月26日号をもって  
 停止させていただきます。



(データ出所：Reuters)

本レポートは情報の提供を目的としており、何らかの行動を喚起するものではありません。ここに示した意見は本レポート作成日現在の筆者の意見を示すのみです。データや数値の抽出範囲・基準は任意で設定している場合があります。データ・資料等については、数値等の誤りが含まれている可能性があります。本レポートに基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失について当行は一切責任を負いません。投資や資金運用に関する最終決定は、お客さまご自身で判断されるようお願い申し上げます。

## 足元のマーケット動向、及び来週の見通し

&lt;担当：山下&gt;

		今週のレンジ	来週の予想レンジ
ドル	ドル/円	89.17-90.83 円	89.00-92.00 円
ユーロ	ユーロ/ドル	1.3530-1.3705ドル	1.3600-1.3750ドル
	ユーロ/円	121.18-124.15円	122.00-125.00円

(今週のレンジは先週金曜日正午～本日正午、予想レンジは本日正午～来週金曜日正午)

5日の米雇用統計では、非農業部門雇用者数は前月比 3.6万人で、雪による影響を見込んだ市場の目線(10万人程度を予想)対比上振れ。ドル買戻しの反応で、ドル円は雇用統計発表直前の89円台半ばから発表後は90円台半ばへ大きく上昇。ユーロについては、ギリシャ問題を材料とする一方向のユーロ売りは一服し、ユーロドルは荒い値動きで上下を繰り返して1.3550~1.3700のレンジ相場。

また、来週の日銀の金融政策決定会合にて追加緩和策が決定されるとの観測から、円は円安寄りに推移し、ドル円は一時90円台後半、ユーロ円は一時124円台まで上昇して、越週(本日正午)。

来週は日銀の決定会合(16・17日)、米国のFOMC(16日)が開催される。

日銀については、新型オペの増額が決定されるとの見方が大層を占める。日本のGDPギャップ(6.1%)からはデフレ圧力が残存している。外的要因やインフレ期待が余程強く働かなければ、CPI(コアコア)のマイナス幅の急速な縮小やプラス転換を近い将来に見込むのは難しい。デフレ脱却のために日銀にも役割期待が寄せられれば、応えざるを得ないだろう。

ただし、国内景気については、外需に牽引されて製造業を中心に、底固い動き。10日に発表された機械受注(船舶・電力を除く民需)は前月の反動減で3.7%だったが、内閣府は基調判断を「下げ止まりつつあるものの、一部に弱い動きがある」から「下げ止まりつつある」へ上方修正している。

追加緩和観測から既に円安に動いているため、決定内容が予想範囲内にとどまれば、発表に際する市場の反応は薄いだろう。ただし、特に米国の出口戦略が意識される局面では、円にはその反対の発想で円安バイアスがかかりやすくなる。

米FOMCでは予定通りMBS買取りの終了が決定されるだろう。弱めの経済指標も一部にはあるが、声明文で景気・物価の判断が大きく変更されることはなからう。また「異例の低金利を相当期間継続する」との文言も残るだろう。公定歩合が上げられた場合は、金利上昇 ドル上昇。

来週発表される鉱工業生産や住宅着工件数は雪の影響による下振れが予想される。だが雪による経済指標の下振れや実際に経済の一時的停滞はあるだろうが、筆者は「景気の回復基調は崩れていない(ただし改善スピードは緩やか)」との見方を変更していない。ドルの継続的な売りは考え難い。むしろ、雇用統計のように、予想比強めの数字が出れば、ドル買い。

ギリシャ問題についてはギリシャ政府による追加緊縮財政措置の発表(3日)、10年債発行による50億ユーロの調達成功(4日)、EUサイドからのEMF構想のニュースなど、それなりの進展が見られる。ギリシャの財政再建や先進各国の財政赤字、あるいはユーロ圏の構造問題、は長いテーマで、今後も相場の底流に残るだろう。だが、デフォルトやユーロ崩壊といった極端なシナリオは一先ず排除され、一方的なユーロ売り相場は一服したと思われる。なお、16日のEU財務相理事会では具体的な結論は出ないだろう。

## ファンダメンタルズ・こう見る

### 日本 (担当: 関)

	今週	来週	3ヵ月後
景況感			
短期金利			
長期金利			

10日に発表された1月機械受注(船舶・電力除く民需)は前月比3.7%と市場予想(同 3.5%)をやや下回った。内訳は製造業が前月比+3.3%、非製造業は同 12.9%。外需は前月比 8.8%。11日に発表された10-12月実質GDP(2次速報)は前期比+0.9%と民間在庫の下方修正を主因に、1次速報から0.2%下方修正された。

来週は15日に3月月例経済報告、16日・17日に日銀金融政策決定会合の開催、18日に1-3月期法人企業景気予測調査の発表が予定されている。

### 米国 (担当: 山下)

	今週	来週	3ヵ月後
景況感			
短期金利			
長期金利			

5日発表の雇用統計では、非農業部門雇用者数が3.6万人(前月2.6万人)、失業率は9.7%で横這い。雪の影響で雇用者数が大幅減少するとの予想に対しては強めの結果となった。今週はその他は大きな経済指標の発表はなかった。

来週は16日のFOMCが最大イベント。経済指標では、エンパイア・ステート・インデックス、鋳工業生産(15日)、住宅着工件数(16日)、CPI、フィラデルフィア連銀サーベイ(18日)の発表が予定されている。

### ユーロ圏 (担当: 梅田)

	今週	来週	3ヵ月後
景況感			
短期金利			
長期金利			

欧州委員会のバローゾ委員長は9日、「ギリシャの支援メカニズムについて、ユーロ圏加盟国と協議を進めている」「これは加盟国の救済を禁じたリスボン条約に沿ったものになり、厳しい条件が含まれる見込み」と発言。一方、ショイブレ・ドイツ財務相が6日に欧州通貨基金(EMF)の創設を提唱したが、シュタルク ECB 専務理事は基金設立構想に反対の意向を表明するなど、賛否が割れている。来週は15日にユーロ圏財務相会合、16日にEU財務相理事会が開催され、これらの問題について協議されると見られる。

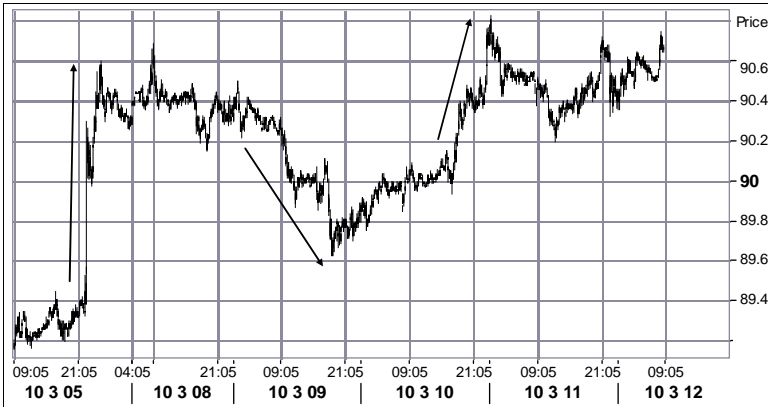
## ディーラーに聞きました(来週のドル円相場の方向性~ブルベア)

月	2月				3月		
	1日~	8日~	15日~	22日~	1日~	8日~	15日~
予想	+1	-2	+1	±0	±0	+3	±0
実績	中立	中立	ブル	ベア	中立	ブル	

見方 当行の為替ディーラー(マーケット、カスタマー)8名を対象に、来週の相場予想を聴取。今週の東京市場正午から、ドルブル(終値から1円以上のドル高)、中立(終値から上下1円内)、ドルベア(終値から1円のドル安)の三択で、結果を(ドルブル人数-ドルベア人数)で表記。+(プラス)は円安ドル高、(マイナス)は円高ドル安を示す。

**今週のプライスアクション**

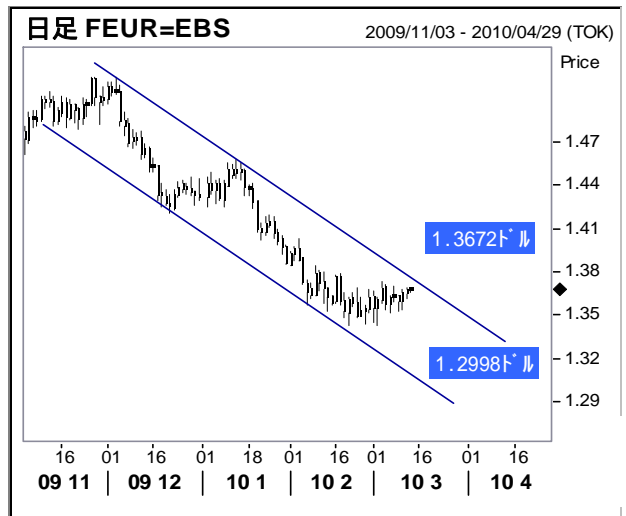
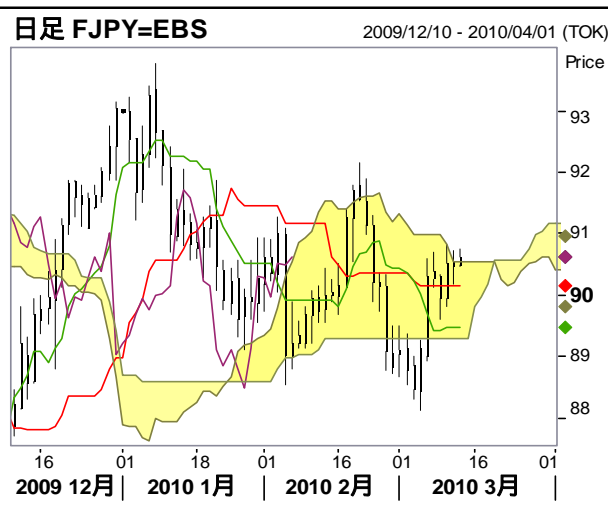
(出所: Reuters)



米雇用統計の上振れで円売り。  
 ユーロ圏のソブリンリスクにつ  
 いての格付け会社コメントを受けて  
 クロス円売り。  
 欧州株上昇や日銀の追加金融緩和  
 報道を背景にクロス円上昇。

**来週のチャート分析**

(出所: Reuters)



<ドル円、日足、一目均衡表>

- ・3/5以降雲の中で推移し、現在雲の上限(90.54円)付近で推移。
- ・このまま雲の中で推移すれば雲の上限は抵抗価格に、上抜ければ支持価格になる。

<ユーロドル、日足>

- ・2009/12月上旬からの下落チャネル内で推移。
- ・3/19の下落チャネルの下限は1.2998ドル、上限は1.3672ドル。

**来週の主な材料**

3 / 1 5 (月)	(日) 2月消費者態度指数、月例経済報告 (欧) ユーロ圏財務相会合 (米) 3月エンパイア・ステート・インデックス、1月対米証券投資、2月鉱工業生産
3 / 1 6 (火)	(日) 金融政策決定会合(~17日) (米) FOMC、2月住宅着工件数、2月建設許可件数 (欧) 2月ユーロ圏HICP(確報)、3月ドイツZEW期待指数、EU財務相理事会
3 / 1 7 (水)	(日) 1月第3次産業活動指数、白川日銀総裁定例記者会見 (米) 2月PPI (その他) OPEC総会
3 / 1 8 (木)	(日) 1~3月期法人企業景気予測調査 (米) 2月CPI、第4Q経常収支、3月フィラデルフィア連銀サーベイ、2月景気先行指数
3 / 1 9 (金)	(日) 1月全産業活動指数

(本ページの担当: 関、梅田)

(注) FOREX WEEKLY に関するお問い合わせは、現在お取り扱い中の営業部/支店にお願い申し上げます。

FAX配信の停止を希望される場合は、下記までご連絡頂きますようお願い申し上げます。  
 グローバルアドバイザー部 電話 03-3282-9380 FAX 03-3282-8200 担当:若林